

2010年度企画展2

道路開発であらわれた遺跡展Ⅳ

都市計画道路高知山田線に伴う発掘成果から



伏原遺跡出土
土師器壺

2010.9.28~11.27

財高知県文化財団埋蔵文化財センター

はじめに

道路開発であらわれた遺跡展は今回で4回目となります。これまで中村宿毛道路、土佐市バイパス、あけぼの道路の展示を行ってきました。今回は、あけぼの道路の延長として高知県が整備を進めている都市計画道路高知山田線を取り上げます。

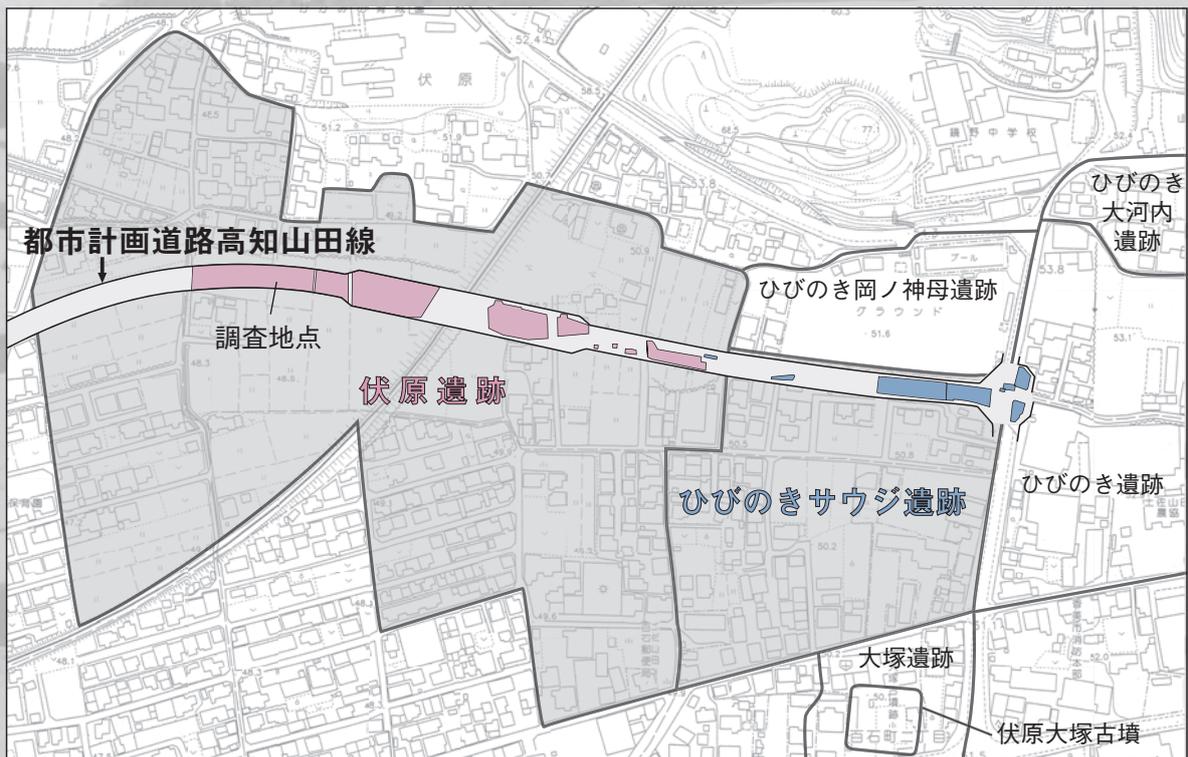
都市計画道路高知山田線の計画されている土佐山田町は県内でも遺跡が多く所在しており、特に古墳時代には須恵器の窯跡や県内最大の大型方墳である伏原大塚古墳を始めとして多くの古墳がみられる地域です。この道路建設予定地内には伏原遺跡とひびのきサウジ遺跡が所在し、平成18年から20年にかけて発掘調査を行いました。今回はこの発掘調査の成果をわかりやすく解説していきます。



ひびのきサウジ遺跡の完掘状態



伏原遺跡から出土した弥生土器



遺跡の位置と調査地点

伏原遺跡

fushihara site

平成18年から20年にかけて発掘調査を実施しました。調査では弥生時代と古墳時代の竪穴建物跡が多数確認され、多量の土器が出土しています。また、古代から近世にかけての生活の跡も確認されており、発掘調査によりこれまで知られていなかった当時の集落の様子がわかってきました。

弥生時代

伏原遺跡の最盛期は弥生時代の終わり頃から古墳時代の初頭にかけての時期です。竪穴建物跡が25棟確認され、この地域では大規模な集落の存在が明らかになりました。竪穴建物跡は円形や方形のほか、五角形の珍しいものもありました。出土遺物には壺や甕、高杯の土器ほか、石包丁も確認されており、今回の調査地の周辺で稲作が行われていたと考えられます。



伏原遺跡の完掘状態

弥生人の住んでいた家 竪穴建物跡

弥生時代の竪穴建物跡は多くが円形のもので、弥生時代の終わり頃には方形へと変わっていきます。伏原遺跡では円形と方形の竪穴建物跡のほかに五角形や六角形とみられる多角形のものが確認されました。多角形の竪穴建物跡は県内では土佐山田町の林田遺跡や南国市の祈年遺跡でも確認されています。多角形の竪穴建物跡は高知県では円形から方形へと変化する時期にみられ、技術的な橋渡しをするものと考えられます。



円形



多角形



方形(古墳時代)

古代人の道具箱 | ~杓子形土製品~

杓子は祭祀に使われるとも言われています。杓子形土製品は県内では伏原遺跡とひびのきサウジ遺跡で出土しているのみです。伏原遺跡では多角形の竪穴建物跡から出土しました。



子どものお墓 ● ● ● 土器棺墓群

伏原遺跡では乳幼児を葬ったとみられる弥生時代の土器棺が14基確認されました。土器棺はひびのき遺跡や南国市祈年遺跡などでも確認されています。祈年遺跡では県内で最多となる21基が確認されています。ひびのき遺跡や祈年遺跡では竪穴建物跡の近くで確認されているのに対し、伏原遺跡では竪穴建物跡が確認されている居住域とはやや離れた地点でま



2基の土器棺墓

古代人の道具箱2 ～石錐～

孔をあけるための道具で、細長い棒状の自然石を利用し、先端が回転により細くなっています。石包丁などの孔をあける際に使用していたとみられます。



古墳時代！

古墳時代後期の竪穴建物跡は7棟が確認されています。この時期の竪穴建物跡は南国市の土佐国衙跡や祈年遺跡など長岡台地周辺で多く見られ、古墳が高知平野東部で急増する状況とも関連があると考えられます。伏原遺跡の約600m東にはこの時期県内では最大規模の古墳である伏原大塚古墳もみられ、古墳築造に関わった集落であったと考えられます。出土遺物では土師器や須恵器のほか耳環や滑石製の紡錘車などがみられます。



古墳時代の土器

古代人の道具箱3 ～紡錘車～

糸を紡ぐ時に回転によって糸に撚りをつけるための円盤状のおもりで、中心の穴に木の棒を通して回転させます。弥生時代は土製で、古墳時代になると石製のものがみられます。古墳時代の石製の紡錘車は厚く、文様を施したものが多く、副葬品や祭祀具として用いられることもあります。伏原遺跡で出土したものは加工の容易な滑石を素材とし、表面には細かい線刻によって鋸の刃の様な鋸歯文が描かれています。



土製紡錘車



石製紡錘車

古墳時代の炊事場 ●●●かまど●●●

高知では古墳時代後期には竪穴建物跡内にかまどが付くようになります。高知県のかまどは石で造られていることが特徴で、四国内ではかまどに石を用いる例は少なく、粘土などで造られたものがみられます。また、県内では竪穴建物跡内の北側に造られることが多いようです。

かまどの出現に伴って煮炊きする土器にも変化がみられ、蒸し器である甑こしきは筒状で底がなく把手の付く大型のものになり、甕も大型化したものが出土します。



土が赤く焼けたかまど跡

古墳時代の装飾品たち

じかれ 耳環

イヤリングのような耳飾りで、古墳時代になると金属製のものがみられます。伏原遺跡から出土したものは銅製で金メッキが施されていました。県内では古墳から出土することがほとんどで、集落から出土するのは非常に珍しいことです。伏原遺跡が古墳と密接な関わりがあった集落と考えられます。



まがたま 勾玉

伏原遺跡から出土した勾玉じやまんがんは蛇紋岩製で、全長5.1cmを測る大型のものです。県内では貝同中山遺跡群のものに次いで二番目の大きさを誇ります。権威の象徴である威信財いしんざいや祭祀具としても使われたと考えられます。



古代・中世

古代の遺構は伏原遺跡の西部でみられ、古墳時代後期と同様な分布がみられます。奈良時代後半から平安時代にかけての建物跡たてもものあとや溝跡が確認されており、県外で生産された緑釉陶器りよくゆうとうきや灰釉陶器かいゆうとうきなどの高級食器のほか、文字が刻まれた土器など貴重なものも出土しています。

中世になると青磁せいじなどの土器がわずかに出土しているのみで、集落は小規模になったものと考えられます。中世後期には楠目城跡くずめを中心に城下町が形成され、伏原遺跡の周辺は城下町の縁辺部であったとみられます。



愛知県猿投産の緑釉陶器



文字が刻まれた土器「日?」



中国産の青磁皿

ひびのきサウジ遺跡

hibinokisauji site

ひびのきサウジ遺跡は都市計画道路高知山田線に伴う調査以前にも調査が行われており、弥生時代の竪穴建物跡や古代と中世の屋敷跡が確認されていました。

弥生時代

今回の調査では弥生時代後期の遺構が確認され、伏原遺跡と同時期に存在していた集落であったといえます。検出されたのは幅が2.5mの大溝で、検出した部分だけでも長さは約60mを測ります。また、溝の中には大量の土器が廃棄されており、県外から運ばれてきた土器もみられました。



弥生土器の出土状態

遠くから運ばれてきた土器 搬入土器

伏原遺跡とひびのきサウジ遺跡では県外から運ばれてきた搬入土器が出土しています。伏原遺跡では弥生時代末から古墳時代初頭にかけての土器がみられ、讃岐、阿波、吉備、河内などで作られた土器が出土しています。器形では甕が最も多く、高杯や器台が少しみられます。

このように複数の地域の土器が出土する遺跡は土佐市の居徳遺跡群、高知市春野町の西分増井遺跡群、南国市の小籠遺跡など地域を代表する遺跡であり、伏原遺跡も比較的大きな集落であったと考えられます。



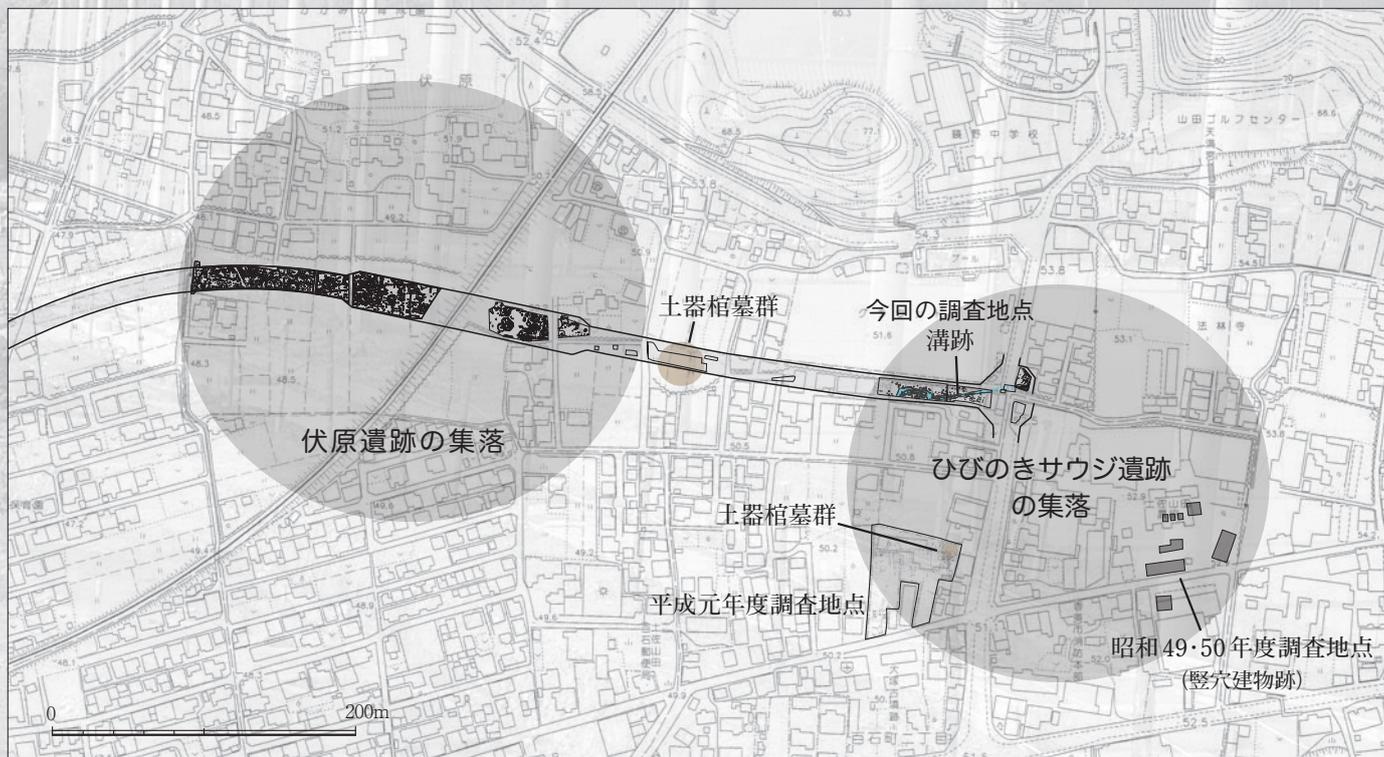
吉備(岡山県)から来た土器



讃岐(香川県)から来た土器



河内(大阪府)から来た土器



弥生時代の集落想定図

中世

中世後期の溝で囲まれた屋敷跡が確認されました。屋敷跡からは中国産の青磁碗や備前焼^{びぜん}などが出土しています。また、屋敷跡と平行するように道路状遺構や石列が約70m 検出されました。この道路状遺構と石列は現在の小字の境に沿っており、石列は字境を示していた可能性も考えられます。さらに、この遺構の東側は現在も道路として利用されており、当時はさらに東へ続いていた可能性も考えられます。ひびのきサウジ遺跡の周辺は16世紀には楠目城跡を中心に城下町が形成され、屋敷跡や墓地、市などの区割りが明確になっていたとされており、今回の調査でその一端が見えてきました。



検出された石列



青磁碗



備前焼甕



道路開発であらわれた遺跡展Ⅳ

—都市計画道路高知山田線に伴う発掘成果から—

開催期間 平成22年9月28日～11月27日
会場 高知県立埋蔵文化財センター
編集・発行 財高知県文化財団埋蔵文化財センター
〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1
☎088-864-0671
発行年月日 平成22年9月28日
印刷 共和印刷株式会社